

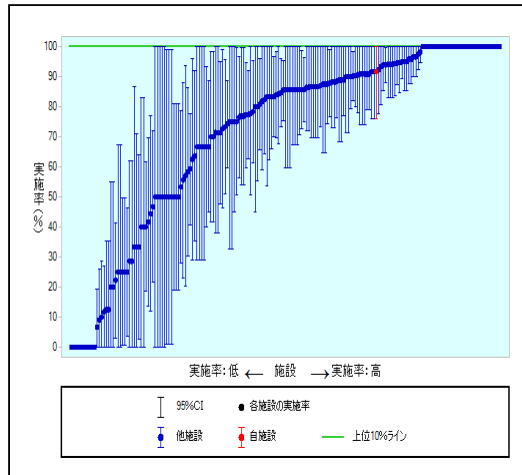
**QI-cv32 小線源治療を用いた根治的放射線治療**

**分子**：小線源治療（腔内照射、組織内照射）が行われた患者数

**分母**：手術無しで根治的放射線治療（同時化学放射線療法を含む）が行われた患者数（M0のみ）

**コメント**：一例以上の小線源治療の治療実績がある施設に限定して計算。

**グループ全体**：（対象患者数）2713（実施率）80.8% **自施設**：（対象患者数）12（実施率）91.7%



小線源治療(ブラキセラピー)は、放射線を出す小さな物質(線源)を体外から当てるのではなく、がん組織の中やそのすぐそばに直接置いて照射する方法です。

主に子宮頸がんや前立腺がんなどで、根治を目指す際に行われます。

子宮頸がんには、外部照射と小線源治療を組み合わせるのが世界的な標準治療です。小線源治療を行わない場合に比べ、生存率が有意に向上することが証明されています。

手術(開腹や腹腔鏡)と比較した場合、放射線治療全般に言えることですが、小線源治療はその中でも特に「局所を狙い撃ち」できるため、よりメリットが際立ちます。

ただし外部照射と違い、医師が線源を置くためのアプリケーション挿入や麻酔を伴う「処置」が必要になるため、担当医の熟練度が重要になります。

当院では9割以上の患者さんがこの方法による治療を受けています。